

山口県議会3月定例会 笠本俊也一般質問要約

県議会の録画中継は
下記からご覧になれます
<http://bit.ly/1dhFZPB>

質問① やまぐち産業戦略推進 計画の充実について

やまぐち産業戦略推進計画の推進に当たっては、中山間地域の振興につながる農林水産業や観光産業に関する戦略を強化することが重要と考えるが、ご所見を伺う。

答弁 村岡知事

選挙期間中、中山間地域に度々伺ったが、人口の減少や高齢化が進行し、集落の支え合いや交通手段の確保が難しくなっているなど、厳しい状況を痛感する一方、地域の活力源である農林水産業等に意欲を持って従事されている方々を頼もしく思った。

4月に開催する産業戦略本部の農林水産業や観光産業をテーマとした分野別会合では、6次産業化の推進や大河ドラマ「花燃ゆ」放映を契機とした大都市圏への情報発信、中山間地域の産業を支える人材の確保などを視野に、検討を深める。

地元市の主体的な取組としっかりと連携し、積極的に支援することを基本姿勢として取り組む。

知事室にて村岡新知事と



俊也の目！
今後知事の思いを反映し強化される計画に、「農林水産」「観光」の視点を強められる答弁をいただきました。中山間地域の産業を支える施策の具現化に向け、今後とも尽力してまいります。

質問② 中山間地域における 集落の空洞化対策について

中山間地域では、集落の空洞化が進んでいる。集落活動を活性化するため、事務局機能の補完や地域づくり活動のきっかけづくり、人材投入などを強化するなど、条件整備について十分に検討する必要があると思うが、ご所見を伺う。

答弁 藤井総合企画部長

本年度から、地域が抱える様々な課題や実践活動を支援するため、地域づくりに実績のある民間人や大学教授などを県内8地区に派遣し、住民主体の持続的な地域づくりを支援する取り組みも行っている県としては、今後とも、取り組みの更なる充実を図り、市町や地域と連携・協働し、地域づくりを担う人材の確保・育成や新たな組織づくりを進め、絆を大切にし、支え合う、底力のある中山間地域づくりに積極的に取り組む。

俊也の目！
高齢化や人口減少により、年々状況が大きく変化する中山間地域それぞれの実情に応じ、暮らしを守り、支えるための「人」や「拠点」といった「つなぎ役」機能を充実強化するため、引き続き提言を重ねてまいります。

質問③ 「食」をテーマとした 観光振興について

「食のフェア」など食をテーマとした観光情報の発信が行われているが、持続的発信のため

には取り組みの効果検証が必要であり、イベントの期間にとどまることなく、「やまぐちの食」の展開を図るべき。裾野の広い観光力の強化に向け、「食」をテーマとした観光振興を図るため今後、どう取り組むのか。

答弁 木村商工労働部長

取り組みの成果を踏まえ、今後、美食王国やまぐち親善大使ビエル・ガニエル氏をはじめ、山口県ゆかりの店や県内飲食店とタイアップした企画を展開するとともに、各店舗での企画の定着や拡大が図られるよう、積極的に働きかける。

また、誘客に結び付けていくため、「やまぐちブランド」、美食コレクション等の素材や食の体験などを幅広く活用した、新たな観光コース、プログラムや旅行商品の造成等にも積極的に取り組み、食を活かした観光力の強化を図る。

俊也の目！
観光振興のための「やまぐちの食」の発信は、県産農林水産物の需要拡大にも直結します。ヨコ割りの連携強化により、総合的な山口の魅力発信を目指してまいります。

質問④ 観光振興に向けた交通二次 アクセスの充実強化について

萩・長門など県北西部は観光基盤が集積しており、交通二次アクセスの充実強化は、観光客数を更に増やすためには特に重要。大河ドラマ「花燃ゆ」放映が決定され、観光力強化に本腰を入れる観点からも、北部観光地に向けた対策についてご所見を伺う。

答弁 木村商工労働部長

県北部においては、大河ドラマを契機としたキャンペーンでの県内周遊対策も視野に入れ、交通事業者における直行バスやタクシープランの整備、接続ダイヤの改正などによるアクセスの強化が図られるよう努める。

俊也の目！
観光客のニーズに合わせた二次交通体制整備は、北部観光地積年の課題です。大河ドラマを機に、充実強化に拍車がかかるよう、北部観光地の声を県政に届けてまいります。



質問⑤ 改正耐震改修促進法 への対応について

昨年成立した改正耐震改修促進法により、昭和56年以前の旧耐震基準に基づき建築された旅館等については、平成27年末までの耐震診断と結果の報告が義務付けられ、旅館・ホテル業界からは公的支援の拡充を求める声も出ている。法改正に対する業界の懸念の声をどのように受け止め、今後どのように対応していくのか。

答弁 藤部副知事

業界の厳しい実情を深く認識し、大規模な旅館・ホテルの耐震化を促進するため、現行の住宅・建築物耐震化促進事業の補助対象にこれらの建築物を追加し、新年度当初予算に所要の事業費を計上。引き続き、他県の状況なども参考にしつつ、耐震化への支援の充実について、検討を進める。

俊也の目！
旅館・ホテルの果たす「宿泊」や「コンベンション」の受け皿としての役割、今後も地域への貢献度が高い分、耐震化支援の充実について、引き続き成り行きを注視してまいります。

質問⑥ 子育てのためのワークライフ バランスの推進について

子育てのための仕事と生活の調和、いわゆる「ワークライフバランス」を推し進め、親が子育てに向き合える時間の再創出が子育てと仕事

の両立に求められている。
本県らしい子育て環境づくりのための「ワークライフバランスの推進」に向けて、今後、どのように取り組むのか。

答弁 木村商工労働部長

本県独自の制度として取組を進めている「やまぐち子育て応援宣言企業」の拡大や、「子育て応援優良企業」の表彰により、他の模範となる企業の積極的なPRに努めるとともに、新年度においては、就職を希望する出産・育児後の女性等を対象に、応援宣言企業での職場体験研修を実施するなど、子育てと仕事が両立できる雇用環境づくりを積極的に進める。

俊也の目！
出産・育児後の職場復帰が容易にできない、という不安を抱える女性が増えることは、少子化にもつながる憂慮すべき事態です。職場における子育て環境づくりの推進に向け、現在子育てで真つ最中の知事の積極的な施策推進に期待します。

質問⑦ 山陰地域の 道路整備について

山陰地域の道路ネットワークは、命をつなぎ、観光力増強や経済活性化のためのインフラであり、早期完成は地元住民の悲願である。今後、より高い整備効果を発揮する道路ネットワーク構築の観点から、山陰地域の道路整備にどう取り組むのか。

答弁 藤部副知事

山陰道については、事業中の長門・俵山道路の一層の整備促進と未着手区間の早期事業化を国に強く訴えているが、新年度予算では、国の行う調査と協調しながら、山陰道へのアクセス道路の予備設計を行う事業費を県独自に計上している。

さらに、山陰道とともに山陰地域の幹線道路ネットワークを形成する県道美祿谷線などの整備を行っており、早期完成に向けて計画的かつ着実に進める。

俊也の目！
山陰道の進捗と併せ、周辺道路ネットワークの構築が欠かせません。将来、この道路ネットワークを活用したまちおこしが山陰地域活性化の力を握っているからです。今後とも事業の進捗を注視してまいります。